



～みんなかがやく 富田っ子～

富田っ子だより 第13号

富田小学校 学校通信

令和2年10月16日(金)



5年自然教室 ～自然の中で友達と過ごした貴重な2日間～



10月7日(水)・8日(木)の2日間、5年生の子どもたちが自然教室に出かけました。1日目の午後からあいにく雨となりましたが、自然に囲まれた環境の下、子どもたちは計画された活動に取り組みました。

1日目、入所式を終えた子どもたちは早めの昼食をとり、ウォークラリーを行いました。ウォークラリーとは、地図を見ながらポイントを回り、課題に挑戦しながら得点を稼いで時間内にゴールまで戻ってくる野外レクリエーションゲームです。子どもたちは3分毎に班別でスタートし、3時間ほど山に入って

2日目の創作活動で使用する葉っぱを集めたり、栗を拾ったりしながら、問題をグループで解き、展望台から眼下に広がる伊勢湾を眺め、自然を感じながら楽しく散策しました。

夕食後は、子どもたちが楽しみにしていたキャンプファイアーでしたが、天候の加減で、キャンドルファイアーへ変更となりました。キャンドルファイアーは、ロウソクの炎を見つめながらゲームなどを通して、友情や親睦を深める活動です。当日は、日本冒険協会「ファミリー」さんたちが楽しいゲームをしてくれて、学校から応援に駆け付けてくれた先生方と一緒に大いに盛り上がりました。



2日目は、レクリエーション、創作活動「葉脈転写」と「キーホルダー作り」の3つの活動を行いました。葉脈転写では、1日目に山で拾ってきた葉っぱにインクを付けて、布に押し付け転写しました。いろいろな植物の葉や大きさの違いで面白い作品ができ上がっていました。また、キーホルダー作りでは、好きなスタンプを押したり、自分で好きな絵を描いたりして、自分だけのオリジナルキーホルダーを作りました。子どもたちにとっては、思い出に残るすてきなおみやげになったようです。



わずか2日間の自然体験でしたが、子どもたちは自分の役割をよく果たし、友達と協力し、実り多い自然教室となりました。また、友達と食事を共にしたり、一緒に部屋で寝たりしたことで、これまで以上に友達を知り、親睦が深まったのではないかと思います。この貴重な体験をぜひ今後の生活に生かして欲しいと思います。

校内ICT研修会 ～教員の指導力向上に向けて～



9月28日(月)、四日市市教育委員会の指導主事先生にお越しいただき、校内でICT研修会を行いました。

先般、文部科学省はこれまで以上に教育の充実を図るため、1人1台パソコンを整備するGIGAスクール構想を打ち出しました。このことを受けて、四日市市では1人1台タブレット(薄い板状のパソコン)が8月末、10月末と段階的に学校へ配備され、3月末までに全児童数分のタブレットが整備される予定です。

タブレットを授業で活用することで、資料を瞬時に子どものタブレットに送信したり、すべての子どもたちの考えを先生が一瞬で把握したりできるほか、子ども同士が友達の考えを即時に知ることができるなど、これまでの授業ではできなかったことが短時間でできるようになります。

本校では、教職員がタブレットの活用方法を学び、授業で効果的な活用ができるよう研修を重ねているところです。子どもがタブレットを家に持ち帰り、家に居ながら学校のオンライン授業が受けられる日もそう遠くはなさそうです。





「読書の秋」を楽しもう ～好きな本を手にとろう～

この時期は、「食欲の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」などの言葉があるように、一年で最も過ごしやすく何をするにも適した時期です。その中で、今回は「読書の秋」について学校の取り組みを紹介しながら、読書の効用について考えてみたいと思います。

読書は、語彙数が増えるとともに、心を豊かにしてくれると言われていています。本校でも、そうした力を子どもたちにつけていくことが、激動の時代を生き抜いていく子どもたちの生きる力の基盤をつくることにつながり、子どもたちの人生を豊かにしてくれるものと考えています。

そこで本校では、年間を通じて、どの子も図書室から一人2冊の本を借り、1冊は学級用専用ケースに、またもう1冊は図書バッグに入れていつでも本が読めるようにしています。また、毎学期取り組む「読書週間」や「図書館まつり」、100冊ほどある学級文庫など、本に触れられる環境をつくっています。

また、月に1、2回、図書ボランティア「ももたろうの会」の皆さんに來校いただき、朝学習の時間に「読み聞かせ」をしていただいています。さらに、毎週火曜日には図書館司書さんが1名、図書の貸し出しや図書館の整備などをしてくださっています。

さて、読書が子どもたちの成長に大きく寄与していることはずいぶん前から言われてきましたが、具体的にどのような効用があるのでしょうか。脳科学者で有名な茂木健一郎先生が、「脳科学でも証明されている！読書好きな子が経験している5つの効果」についてコメントされていますので紹介します。

①語彙・言語能力の発達

絵本や本の中にある言葉や表現の仕方は、私達の日常で使われている言葉とは少し違います。

読書をするとき意識せずとも語彙が増え、言葉の発達もぐんぐん伸びます。

②集中力がつく

本が好きな子は集中力があると言われます。確かに読書はテレビや漫画に比べると、真剣に本と向き合わなければ内容が頭に入ってきませんから、自然に集中力がついていきます。

③想像力・感受性が豊かになる

想像力は人間が生きていくうえで欠かせない“脳力”です。読書は自由奔放な想像の世界に子どもを導き、情操を豊かにします。人が力強く生きる原動力ともなる好奇心を刺激し、しなやかな心をつくるでしょう。

④ストレスの解消ができる

読書が大好きになって、本の世界に没頭できるようになると読書は手軽なストレス発散方法になります。筆者も読書が好きなのですが、疲れた時は寝転んで本を開きます。そうすると、心も体も随分リラックスしているのを感じます。

⑤人の気持ちがわかるようになる

読書をするとき様々な登場人物の心理を読み取る事になるので、自然と人の気持ち・共感する能力が上がります。



このように、読書は子どもたちの心をより豊かにし、生きるための力をつけていく上で欠くことのできないものです。毎日の生活の中で本に触れる機会を学校でもお家でも持てるようにしていきたいものです。

夜間中学等に関する追加的ニーズ調査の協力について ～三重県教育委員会から～

三重県では、中学校での学習が十分にできなかった方や外国人の方などを対象に、中学校の学びを行う中学校夜間学級（いわゆる夜間中学）や日本語を学習する場の在り方を検討しています。そこで、三重県内における「学びの場」に関するニーズを把握するため、対象者の方でアンケートにご協力いただける方は、ご回答いただいた旨、三重県教育委員会から依頼がありましたのでお知らせします。

詳しくは、三重県のホームページをご覧ください。

URL: <https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0045300045.htm>

【アンケート受付期間】11月30日（月）まで

QRコード

